

国葬を 考える

シンポジウム

二〇二二年七月八日に安倍晋三元首相が殺害されました。岸田文雄政権は、早々に国葬を行なうことを決めました。

この決定について、私たちは二つの問題があると考えています。

第一に、「国葬」を行なう法的根拠が不明瞭であること。

第二に、安倍晋三という人物が国民的追悼に値する政治家であったのか疑問であること。

この二つの角度から、国葬と第二次安倍政権以降の政治、そして統一教会との癒着問題も含め、各分野の専門家の立場から検証し、議論します。

二〇二二年

九月一九日〔月祝〕

午後二時～五時

東京大学駒場キャンパス一八号館ホール

パネリスト

石川健治 (東京大学)

片山杜秀 (慶應義塾大学)

國分功一郎 (東京大学)

白井聡 (京都精華大学)

三牧聖子 (同志社大学)

山口広 (弁護士)

【リアル定員】百名

※学内関係者・報道関係者のみ

【オンライン定員】三千名

※Zoomウェビナーによる

【参加費】無料

【申込】共に申込先着

八月二七日より該当申込フォームにて

【内容詳細・お問い合わせ】

「国葬を考える」公式ウェブサイトにて



【主催】東京大学 國分研究室

【協力】東京大学 共生のための国際哲学研究センター

(UTCP)

